



<教育目標>

- 思いやりのある子ども
- 進んでやりぬく子ども
- じょうぶな子ども
- よく考える子ども

平成30年9月28日(金)
練馬区立豊玉第二小学校
校長 永井 美奈子

豊二小だより

10月号

「伝え合う力」を育む

校長 永井 美奈子

高く澄み切った空と爽やかな風が心地よく感じられる季節。秋は、1年を通して最も過ごしやすく、勉強やスポーツ、読書、そして芸術にと、何をするにも気持ちを前向きにしてくれます。

校庭や体育館では、10月6日(土)の運動会に向けて、熱心に練習に取り組む子供たちの姿が見られます。今年は、東側トイレの改修工事に伴い、9月末まで校庭の北側が使用できませんでした。全面を使って練習できるのは、10月に入ってから4日間のみです。練習環境が十分整わない中ではありますが、子供たちも教職員も最善の努力を尽くして運動会に臨みます。当日はぜひ御来校いただき、子供たちが躍動する姿や成長の様子を御覧ください。



第6学年研究授業における伝え合いの場面

さて、本校では子供たちの「伝え合う力」を育むため、国語科「話すこと・聞くこと」の学習を中心に研究に取り組んで、今年で3年目となります。この「伝え合う力」とは、相手の立場や考えを尊重し、言葉を通して心の交流を図り、豊かな人間関係を築いていく力であるとされています。

子供たちの日常生活を見ていますと、自分の感情を言葉で表現したり、他者と交渉したりすることがうまくできないために、けんかやトラブル等に発展するケースが、度々起きているように思います。人間関係が上手にできない子供は、自分の考えを一方向的に伝えるだけで、相手の言葉に耳を傾け相手の気持ちを分かろうとはしません。また、人への迷惑や常識、ルールを守るといったこともあまり気にしない傾向があります。お互いの考えや気持ちを伝え合うためには、言葉と共に相手を尊重する思いと態度が大変重要です。教師は、子供たちが思いやりをもって寄り添い、共感したり受容したりしながら学び合える授業づくり、学級づくりに努めねばなりません。優しい言葉遣いや聞き合う関係づくりを、日常における具体的な場面を捉えて一つ一つ丁寧に指導し、子供に意識させていくことが肝心だと思っております。

さらに、大人側には、子供の気持ちを敏感に受け止め、心を安定させるような配慮が必要であると思います。相手の気持ちを受け止めたり、多様な考えに対応し前向きに考えたりする力は、心が安定し充実した状態でこそ、発揮できるもの。家庭は心のエネルギー源であり、人の心の温かさ、優しさを育むところです。そして、その温かい心こそが「伝え合う力」の基盤となるものなのです。

御家庭でも時折、お子さんが様々な不満や不安を感じ、訴えてくることもあるでしょう。そのような時には、「どうしてそのように思うのか」をじっくり聞いてあげてほしいと思います。そうすることで、自分の気持ちが整理され、子供自身でいつの間にか解決の道を見いだしていることもあります。また、独りよがりの考え方に対しては、親としてたしなめ、社会的な約束事を話すことで、子供の心に社会規範を育てていくことも大切ではないかと思えます。

子供たちに「伝え合う力」を育むために私たち教職員は、これからも力を尽くしてまいります。どうぞ、引き続き保護者、地域の皆様の御理解・御協力をよろしくお願いいたします。